

## I. 法人本部

### 《総括》

社会福祉法第24条「経営の原則」の第1項には、「社会福祉法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図り提供する福祉サービスの質の向上及び事業経営の透明性確保を図らなければならない」と規定されている。

また、時流と共に社会福祉法人の位置付けが大きく変化し、社会福祉法の改正により、同第2項に追加として、福祉ニーズへのきめ細かい対応と既存制度で対応できない人々を支援する位置付けとして公益性と非営利性を備えて貢献する体制を求められている。

一方、継続的な通所事業所の定員割れが続き障害福祉サービスでの収入は減少し、物価の高騰、職員給与等の増加などで支出は増えており十分な収支差額の確保が困難になっている。また、慢性的な人手不足、人材確保が難しい中、正職員の1割強あたる職員の退職も重なり、中期事業計画の変更を余儀なくされることになった。

令和6年2月には3年ぶりの報酬改定案が示され、障害者福祉サービスにとっては、マイナス改定と言われるを得ない部分が散見されたが、新たな加算を模索するなど安定した収入確保に努めた。

このことから利用者・地域に選ばれる社会福祉法人として、サービスの自己点検など自法人の強み弱みの把握に努め、時代に即応した福祉サービスを実施すべく、再度策定された中期事業計画に基づき、今後の事業展開や経営改革に取り組む必要がある。

### 1. 重点目標に対しての評価 評価：○できた・△だいたいできた・×できなかった

#### (1) 人権の尊重

年間計画	取り組み	評価
利用者の人権の擁護・虐待の防止等のため必要とされる措置を講じます。また、身体拘束等の適正化を図るため必要とされる措置を講じます。（委員会の設置等）	虐待が疑われる行為はすべて事業所から安城市へ通報しており、適切に対応した。 事業所毎の委員会の取り組みが消極的なところがみられる。	△
利用者やその家族等からの苦情、相談に誠意を持って的確に対応するために、是正、改善の仕組みを点検し、的確に運用します。	苦情・要望には真摯に向き合い解決に努め、マニュアルを見直し、定められた第三者委員への報告も行ってきた。	○

#### (2) サービスの質の向上

年間計画	取り組み	評価
利用者やその家族等の声がサービスの改善に活かされる仕組みづくり、利用者やその家族等の満足度を把握するための仕組みづくりを行います。	利用者満足度調査を定期的に行い、利用者、利用者家族の声を吸い上げるよう努めたが、そこで得た声の反映に課題が残る。	△
1年後の「安城市虹の家」の指定管理者終了に備え、引き続き指定管理が受けられるよう安城	継続した人材確保が難しいことから安城市虹の家の指定管理者への応募は断念したが、スムー	×

市と連携を密にしていきます。	ズな引き継ぎを行った・	
----------------	-------------	--

(3) 地域における公益的な取り組みの推進

年間計画	取り組み	評価
災害時の取り組みとして、特定福祉避難所の取り組みへの備え等、地域住民の安全・安心な生活の確保に取り組みます。	安城市と福祉避難所としての協定を結び、事業継続計画の策定、見直しと職員への周知、研修及び訓練を実施した。	○
法人の持つ施設と人材を最大限に活用し、福祉サービスの提供と住民や関係機関との連携を図りながら、そこから出た新たなニーズに応えるべく、地域・利用者及びその家族・職員が幸せになれるような数年後を見据えた事業運営と支援活動を継続して行っています。	人材確保が難しいことから計画の変更はしたものの、必要とされるサービスについての取り組みは引き続き行うようプロジェクトチームの発足を計画した。	△

(4) 生活環境・利用環境の向上

年間計画	取り組み	評価
新型コロナウイルス感染症をはじめとした感染症の予防・拡大防止のためのマニュアルを再点検するとともに、マニュアルが励行されるよう職員教育を徹底します。	法人内で新型コロナウイルス感染症等の感染者が出た場合の事業継続計画の策定、職員への周知、研修及び訓練を実施した。	○

(5) 中長期的な人材戦略の構築

年間計画	取り組み	評価
法人の経営理念、期待する職員像に基づきトータルな人材マネジメントシステムを構築します。	幹部職員の選抜、育成を計画的に行うよう努めた。また、女性の活躍も推進するよう土壌作りを行った。	△
法人の中長期的なビジョンに基づいた（5年後、10年後を見据えた）「要員計画」の策定を行います。	正職員の1割強あたる職員の退職により、採用計画の見直しを余儀なくされた。	×

(6) 人材の定着に向けた取り組みの強化

年間計画	取り組み	評価
職員に対するフォローアップを意図的、計画的に行います。	座学とOJTを取り混ぜながら研修を行ってきたが、年度途中の退職もあり、定着にはつながっておらず課題が残る。	△
一般事業主行動計画の確実な実施のため、ワークライフバランス（仕事と生活の両立）に配慮	超過勤務は、目標の前年度比10%減を下回る34%増となり、有給休暇は、前年比13.6%増の93.	×

した取り組み（勤務時間の適正化、有給休暇の計画的な取得等）、女性の活躍を推進します。 （役職者に女性の積極的な登用・産休・育休の円滑な取得及び復帰）	8%の取得となった。年度途中の退職によるもの、人に仕事がついている属人化が影響していると思われる。女性職員の産休、育休の取得は100%だったが、復帰はそれぞれの事情があり、うまくいかないケースもあった。	
---	---	--

（７）人材の育成に向けた取り組みの強化

年間計画	取り組み	評価
職員を適正に評価し、職員一人ひとりの自己実現、キャリア形成と組織が期待するものを調和させた人事制度・人事考課等の育成システムを見直します。	前年度に引き続き、中小企業診断士にアドバイザーとして人事考課者訓練に参画してもらい、人事考課の公平性、納得性を高めるよう努めた。	○
ＯＪＴ（職務を通じての研修）を「職場研修の基本」に位置付けるとともに、職員の成長段階に応じた配置とそこで必要となる各種教育、研修の実施を行い、キャリア形成や能力開発を行います。	研修計画を策定し、一人ひとりの職員に合った研修に参加させた。本人のキャリア形成のため資格取得の奨励、研修希望をとりながら、より実効性のあり研修内容に努めたが全体への周知が不足しており、退職に繋がるケースもあった。	△
主任・主任候補者等のリーダー層の育成に取り組むと同時に目指すリーダー像を明確にします。リーダー層の教育を充実し、次世代の管理者、経営層の後継者の選抜、育成に努めます。	人事考課研修において主任・副主任が目指すべき職員像について、理解を深めた。講師の中小企業診断士に次世代リーダーの選抜についてアドバイスを受けた。	△

（８）コンプライアンスの徹底

年間計画	取り組み	評価
職員に対する社会福祉関係法令、労務関連法令、虐待防止法等の適切な理解を促す場の提供に努め、社会的ルールの遵守の重要性を普及・啓発します。	福祉施設の職員としてのルールの徹底を各管理者に課してきたが、それぞれ温度差があり、職員一人ひとりの十分な理解には至らなかった。	△

（９）健全な財務規律の確立

年間計画	取り組み	評価
社会福祉法の改正の趣旨に沿って適正な社会福祉充実残額を計上し、社会福祉充実計画の在り方について、地域のニーズに沿った長期的な視点に立ち、見直しをしていきます。	地域のニーズに沿った計画を策定したが、法人の中期事業計画の変更があり、次年度の社会福祉充実計画は変更を余儀なくされた。	△
常に利用者サービスを中心にした事業展開が図るとともに、その事業の将来性、継続性を見通	社会福祉法人の公益性を鑑み、収益性が見込まれない部分への参入も含め、職員から意見を求	△

した経営管理を行うとともに、限りある資源を有効に使い、効果性、効率性の高い経営管理を実現するよう努めます。	める取り組みを実施したが、実が伴わなかった。	
会計責任者である管理者には財務管理能力の向上のための取り組みを行います。	支援の現場には積極的に指導力を発揮しているが、会計となると苦手意識が未だ見られる。	△
各事業所の管理者・主任などで構成する「経営改善会議」を定期的に開催し、現状把握と経営課題の点検、分析、改善をめざします。（各事業所においても同様の取り組みを行う）	経営を経営者だけに任せず、職員一人ひとりが我が事意識で考える習慣づけを目指した。事業所の新規利用者の増加、各自支出の削減に努め、一定の効果があつた。	△

#### (10) 経営者としての役割

選ばれる事業所を目指し、サービスの自己点検など自法人の強み弱みの把握に努めます。	目標として掲げたものの職員一人ひとりが自法人の強み弱みの把握できるような働きかけを行ってこなかった。	×
安定した経営、事業継続のための資金（借入償還・建替・昇給・設備投資など）の確保をします。	経営改善会議で職員一人ひとりが経営を意識した行動を行ったこともあり、安定した経営の一助となった。	△
令和6年度障害福祉サービス等報酬改定の基本的な方向性についての理解を深め、求められる対応の確実な実施をしていきます。	それぞれの事業所が自施設の課題を考えるきっかけとなり、加算の算定に積極的に取り組む姿勢がみられた。	△

## 2. 運営事業

### (1) 第二種社会福祉事業

- ア. 生活介護事業所ぬくもりの家（定員40名）
- イ. 生活介護事業所ぬくもりワークス（定員60名）
- ウ. 生活介護事業所まるくてワークス（定員60名）
- エ. 共同生活援助事業所アットホーム（定員14名）
- オ. 多機能事業所ぬくもりの郷（定員20名）  
（【生活介護】12名【放課後等デイサービス8名】）
- 共同生活援助事業所ぬくもりの郷（定員20名）
- 短期入所事業所ぬくもりの郷（定員6名）
- カ. 相談支援事業所 ぬくもり
- キ. 就労継続支援B型事業所安城市虹の家（定員20名）指定管理の受託

### (2) 公益事業

- ア. 地域生活支援事業
- 日中一時支援事業（ぬくもりの家・ぬくもりワークス・まるくてワークス・ぬくもりの郷）

## 3. 役員会等の開催状況

(1) 第1回理事会

令和6年6月7日(金) ぬくもりの郷

出席理事6名・監事2名

(2) 第1回評議員会

令和6年6月28日(金) ぬくもりの郷

出席評議員8名・監事2名・立会理事2名(理事長・常務理事)

(3) 第2回理事会

令和6年12月18日(水) ぬくもりの郷

出席理事6名・監事2名

(4) 第3回理事会

令和7年3月21日(金) ぬくもりの郷

出席理事6名・監事1名

(5) 監事監査

令和6年5月17日(金) ぬくもりの郷

出席監事2名・立会理事1名(常務理事)

4. リスクマネジメントの状況(延べ件数) ※ ( ) 昨年度実績

	家	ワ	ま	ア	郷	相	虹	本	計
ヒヤリハット事例	76 (53)	5 (54)	125 (15)	18 (8)	48 (17)	33 (42)	9 (34)	23 (42)	337(265)
事故報告	14 (16)	25 (32)	19 (39)	2 (3)	36 (24)	4 (2)	12 (13)	13 (12)	125(141)
苦情報告	1	1	0	0	0	0	0	0	2 (11)
虐待の疑いの通報	0	0	0	0	0	2	0	0	2 (4)

5. 第三者評価の受審状況

一昨年度全事業所が岐阜後見センターにて第三者評価を受審し、評価では良い点や改善すべき点などについて指摘を受けた。改善すべきと指摘された点については、継続的に改善に向けた取り組みを行うとともに、評価の良かった点についても更なる改善に努めた。これらのことを踏まえ、各事業所で自己評価を行い、提供するサービスの再点検を行った。

6. 職員研修の実施状況

OJT(職務を通じての研修)を「職場研修の基本」に位置付けるとともに、職員の成長段階に応じた配置とそこで必要となる各種教育、研修の実施を行い、キャリア形成や能力開発を行った。

強度行動障害とみられる利用者が増えており、強度行動障害支援者養成研修を積極的に受講させた。

7. 会報の発行

法人の会報を発刊し、施設の内容などの紹介を行い、地域住民の理解を深めるよう努めた。

(1) 発行回数 年2回

(2) 発行部数 1,100部

(3) 配 布 先 保護者・手をつなぐ親の会会員・福祉関係施設・行政機関・ボランティア団体  
北明治連合町内会・赤松町内会・池浦町内会・城南町内会・学校等

## 8. 職員の在籍状況（育児休業中職員を含む）

### (1) 採用と退職状況

単位：人

	R06年度当初	採用	退職	R07年度当初
常 勤	51(53)	2(1)	6(3)	47(51)
非常勤	99(86)	23(17)	25(4)	97(99)

※常勤・非常勤間の転換は採用・退職ともに含む

### (2) 有給休暇取得状況

勤 続 年 数	1 年未満	1 年以上 3 年未満	3 年以上 5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上 15 年未満	15 年以上 20 年未満	20 年以上	平均
取得率 (%)	0.0	100.0	74.0	98.6	89.1	100.0	98.2	93.8
取得日数 (日)	0.0	10.0	10.6	19.0	17.8	20.0	18.3	17.3

(令和5年度平均取得率80.2%、日数14.9日)

### (3) 超過勤務状況

単位：時間

	ぬくも りの家	ぬくも りワー クス	まるく てワー クス	アット ホーム	ぬくも りの郷	相談ぬ くもり	虹の家	本部	合計	平均
4 年度	673	573	641	147	1,050	136	239	177	3,636	65
5 年度	644	815	810	129	1,030	159	526	165	4,278	85
6 年度	775	1,471	1,035	108	1,312	159	652	249	5,761	116

## 9. 借入金の状況

### (1) 福祉医療機構からの借入状況（令和7年3月31日現在）

単位：円

借 入 目 的	借入 年度	借入金額	令和6年度償還状況		借入残高
			元金	利息	
まるくてワークス施設整備	17年	30,000,000	1,500,000	31,500	1,500,000
ぬくもりの郷施設整備	24年	80,000,000	4,032,000	426,300	31,920,000
ぬくもりの郷Ⅲ施設整備	27年	30,000,000	2,016,000	90,090	10,920,000
計		140,000,000	7,548,000	547,890	44,340,000

### (2) 借入金の償還財源の状況

単位：円

区 分		金 額	内 訳
元利償還金（令和6年度）		8,095,890	元金7,548,000 利息547,890
財 源	自己資金	5,871,890	本部会計
	補助金	2,224,000	愛知県（民間社会福祉施設運営費補助金）
令和7年度償還予定額		8,009,370	元金7,548,000 利息461,370

10. 寄付金の状況

（1）事業活動による収支の部

単位：円

	本	家	ワ	ま	ア	郷	虹	計
家保護者会	680,600	65,732						746,332
ワ保護者会	958,000							958,000
ま保護者会	859,000							859,000
郷保護者会	515,000							515,000
企業・団体	10,000	53,723	50,000	5,000		4,016,760		4,135,483
個人	1,806		60,000	10,000		1,735,470		32,100,900
計	3,024,406	119,455	110,000	15,000		5,752,230		9,021,091

## Ⅱ. ぬくもりの家

### 《総括》

令和6年度も「何はともあれ本人中心」をキャッチフレーズに支援を実践した。活動もコロナ禍前と同様ウォーキングを中心に積極的に外へ出かけた。またかねてより地域とのつながりを大切に北明治地域サロン活動「わくわく喫茶」において「あいさつとうばん」を拝命し高齢者と継続的にふれあっている。昨年度はさらに町内の地域活動「いきいきサロン」で公民館において「山の幸染め講座」を町内福祉委員会との協働で開催した。利用者さんがアシスタントとして活躍し、参加者から「先生！」と呼ばれるなど微笑ましい場面もみられ交流を深めることができた。

開所時より続いた会長・副会長・会計の三役を立てての保護者会組織は「一定の役割を終えた」という理由で解散となった。

### 1. 重点目標に対しての評価 評価：○できた・△だいたいできた・×できなかった

#### (1) 権利擁護意識の向上

年間計画	取り組み	評価
「本人らしさ」「その人らしさ」とは何かを追求し、ストレングス（長所・強み）に着目した支援を行います。また、自らの支援を本人中心の視点で振り返ります。	研修で学んだ「リフレーミング」を活用してストレングスを見つけ、本人の得意なことを活動に取り入れることができた。	○
「意思決定支援」には未体験のことを体験する①「意思形成支援」、言葉以外で思いを表出できるよう工夫された②「意思表出支援」、またその③「思いを汲み取るスキル」が必要です。さらに汲み取った思いをサポートして実現させる④「意思実現支援」がゴールです。以上を心がけながら「意思決定支援」を実践します。	未体験のことを体験していただく機会は少なかったが、②③④はチームとしてミーティングで合意形成のうえ取り組むことができた。特に家庭では難しいと思われる外出の支援を積極的に行うことができた。	○
支援員は1日の中で「各課に入る」「全利用者さんと挨拶をかわす」など担当以外の利用者さんとも関わります。	100%とは言えないものの、全職員が全利用者に声をかけるという意識を持っている。	○

#### (2) 支援員のスキルアップ

年間計画	取り組み	評価
Web学習「サポーターズカレッジ」を継続して視聴するなどの内部研修はもちろん、外部研修に積極的に参加します。得た知識は事業所内で伝達しスキルアップにつなげます。	ミーティング時にサポーターズカレッジを必ず視聴することができていた。外部研修では学びとともに他事業所職員とのつながりもできた。	○



個別支援が基本ですが、支援する側は「チーム」なので「チームで行う個別支援」であることを忘れないよう朝礼・終礼・ミーティングでの合意形成を大切にします。	朝礼、終礼では送迎業務等のため全員が揃わない日も多々あったが、可能な限り情報共有や合意形成に努めた。	△
支援員は常に権利擁護意識と支援スキルの向上に努めます。そのため支援中は以下の5つを実践します。①担当課以外に積極的に入る②過度なスキンシップを避ける③ひとりひとり異なる適切な距離感でコミュニケーションを取る④事故やヒヤリハットにつながる支援員どうしの私語は慎む。⑤手を出しすぎることは主体性を損なうことと考え「見守り支援」を基本として必要最小限のサポートを心がける。	左記の意識は高まっていると思われるが、実際の支援現場では職員によってバラツキがある。特に②はできていない支援員が複数いる。④⑤はほとんどができていた。	△

### (3) 地域とのかかわり

年間計画	取り組み	評価
市民として積極的に外へ出て利用者さんを知っていただく機会とします。そのことが「地域の福祉力アップ」「障害のある方が普通に歩いている“安城（まち）”の景色をつくること」につながると考えます。	ウォーキングを通して地域の方々と積極的に挨拶を交わすことができた。	○
町内会、ボランティアネット北明治の会など地域とのネットワークを大切にします。	「わくわく喫茶」のあいさつ当番や「いきいきサロン」での「山の幸染め」教室で町内活動とコラボレーションできた。	○

### (4) 環境および健康増進

年間計画	取り組み	評価
「意思疎通と情報共有のできている職場」「笑顔と活気溢れる居心地のよい風土」作りに努めます。	朝礼、終礼、ミーティング、引き継ぎノート等々で情報共有に努めた。言いにくいことだが必要なことは伝え方を工夫し、支援の目的等の理解と共有に努めた。	○
四季を感じる「ウォーキング」を活動の中心に据え、良質な睡眠や風邪予防に努めます。	1年を通してウォーキングを行い、健康増進に寄与することができた。	○
看護師と支援員の連携・役割分担によりインフルエンザ等の感染者ゼロを目指します。消毒作業を毎日行い、清潔で安全な環	感染者ゼロの達成はできなかったが可能な限り予防に努めた。	△

境を整えます。		
利用者さんに「わかりやすい伝え方」を心がけます。写真やイラストを使い、「見える化」に努め安心につなげます。	写真やイラストをよく活用して伝えることができた。	○

## 《生活介護事業》

### 1. 年間利用実績 ※（ ）昨年度実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数 (人)	男性	23	23	23	23	23	23	23	23	23	24	24	24	279
	女性	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	204
	計	40	40	40	40	40	40	40	40	40	41	41	41	483
出席率（％）		83.9	84.4	84.5	85.7	85.0	86.8	84.8	84.8	80.0	81.8	79.5	83.1	83.7 (86.2)

※1. 在籍者数は初日在籍数

※2. 出席率は在籍数に対する出席率

### 2. 年間行事

月	日	施 設 行 事
4	1	新利用者歓迎式
5	23	健康診断（半田市医師会健康管理センターによる）
	28	ぬくもりチャレンジ運動会
6	7	イチゴ狩り
7	20	歯科検診
	27	避難訓練（こなまず号による地震体験）
8	21	ぬくもりフェスタ レインボーコンサート
9	18・25・30	歯科検診
	23	お楽しみ会 プルミーノにてビュッフェ体験
		避難訓練（消火訓練）
10	4・11	日帰り旅行（のんほいパーク）
11	2	インフルエンザ予防接種

	17	ぬくぬくふれあいコンサート			
12	18	避難訓練（地震発生時の避難）			
	20	クリスマス会			
1	24	新年会			
3	27	避難訓練（通報訓練）			
定期活動	訪問リハ	お出かけランチ	嘱託医健診（内科）	山の幸染め	
	体重測定	出張カット	音楽療法	アロママッサージ	

※個別面談はサービス等利用計画に合わせて誕生日を基準に6ヶ月ごとに実施

### 3. ボランティア受入状況（延べ人） ※（ ）昨年度実績

区 分	計	区 分	計	区 分	計
一般	48	大学・専門学校	6	社協	0
北明治ネット	31	更生保護関係	0	民生委員	11
J A 青年部	5	高校生	10	中学生	3
音楽協会	6			合 計	120(70)

### 4. 実習生受入状況（延べ人） ※（ ）昨年度実績

区 分	計	区 分	計	区 分	計
中学生	0	大学生	173	学校教諭	0
専門学校生	20	高校生	44	合 計	237 (215)

## 《日中一時支援事業》

### 1. 事業内容

- （1）日中における活動の場を確保し、利用者の情緒安定を図ると共に、家族のレスパイトを目的の事業。

令和6年度は4名の利用者が延べ94回利用。

### Ⅲ. ぬくもりワークス

#### 《総括》

令和6年度は4月に安城特別支援学校から2名と他事業所から1名、7月に就労継続A型事業所から1名、10月に安城市虹の家より1名と計5名の利用者増があったが、これまで長きにわたりぬくもりワークスを利用していた方5名が入所施設等に移行し退所した。ぬくもりワークスでの高齢化が顕著に表れてきていることを実感した。常勤職員においても主任を含め3名の職員が異動により変わったが、新たな風を利用者さんも感じながら、これまでの日中活動を継続して行うことができた。

作業収入においては、えびせんべい売り上げが取引会社の廃業により数ヶ月仕入れが滞ったため販売できず数十万円の減少となったが、他の下請け作業のほぼすべての増収と資源化センター・E Mぼかしの単価を上げたことによりトータル的には売上高の増収ができた。

日帰り旅行は、利用者の希望で浜名湖パルパルと鈴鹿サーキットに行き、遊園地を満喫した。引き続き開催した年2回の土曜開催はテーマを水族館として6月に竹島水族館、3月に名古屋港水族館に行き楽しんだ。

人材育成では非常勤職員も含め、ぬくもりの家・安城市虹の家と合同で虐待防止研修を年2回行い、BCP災害編の研修として全職員でサポーターズカレッジ（ウェブ講座）を受講し、常勤職員は机上訓練も全員で受講し理解を深めた。

#### 1. 重点目標に対しての評価 評価：○できた・△だいたいできた・×できなかった

##### （1）利用満足度の向上（利用者に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み	評価
利用者の『やりたい』を大切に、意思決定支援を行います。（常に権利擁護意識に努めます。）	「やりたい」気持ちを大切にし、やってみたい作業があればチャレンジしてもらいました。余暇と作業も選択することで笑顔が増えてきた。	○
生産活動を通して愉しく働きながら社会参加を行います。	毎日自分のやりたい作業が選べることで、納得し愉しみながら作業ができている。働いた工賃の使途意識までには至っていない。	△
四季を体感できるように外出先や季節に合わせた創作活動を行います。	歩行に出掛け四季の花木を散策した。季節に合わせた貼り絵、塗り絵（節句・梅雨・七夕・節分・ひな祭り等）を実施した。	○

##### （2）地域との連携を強化（社会に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み	評価
町内会行事、福祉祭りなどの参加、企業への納品などを通して地域とつながります。	赤松納涼まつり・福祉まつり参加はもとより、町内環境保全活動、町内文化祭出展し親睦を図った。企業への納品には利用者が	○

	同行して、企業担当者と接し労いの言葉を掛けられていた。	
民生委員やボランティア等を積極的に受け入れ、福祉に対する理解の促進を目指します。	外部の方の受け入れは積極的に行っており、施設概要や施設の役割等を説明している。利用者が施設行事や作業説明することを実施した。	○
学校の地域教育に貢献します。	安城高校企業説明会に参加し、福祉への知識を深める活動を行った。	△

(3) 人材育成と職員のスキルアップ（福祉人材に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み	評価
実習生を受け入れ、新たな人材育成に努めます。	社会福祉士・看護学生・教員介護等体験等の実習受け入れを行い、終礼時等でワークスの役割・やり甲斐・愉しさを各職員から伝えた。	○
必要に応じた支援・介護技術など内外の研修や勉強会に参加してスキルアップを図ります。	虐待防止、強度行動障害研修に常勤、非常勤共に参加した。県外研修にも参加した。	○

(4) 利用環境の維持（安心・安全なサービス提供に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み	評価
毎日検温を行い、看護師と連携を行います。	毎日検温（冬場感染症流行期は2回）をし、検温時に感染症の疑いがありそうな場合、看護師と連携して対応した。	○
公用車の安全運転に努めます。	事務所入り口に安全運転を啓発するポスターを掲示して意識付けを行った。必要に応じてドライブレコーダーの確認を行った。	△

(5) 健全な財務規律の確立

定期的で開催される経営改善会議からぬくもりワークスの現状把握と課題を共有して改善を図ります。	経営改善会議を定期的で開催することができなかった。利用時間での報酬変更に伴い減額が予想されるので、利用希望者全員を受け入れ収入増を図った。	△
生活インフラの使用方法の見直しを図り、経費削減に努めます。	食堂を使用時のみ以外は施錠し、節電・節水に心掛けた。消灯やエアコン温度設定にも目配りをしたが、設定温度、風量を変更できてしまっていた	△

年2回（土曜日又は日曜日）の施設営業を行います。	6月22（土）に竹島水族館・3月1日（土）に名古屋港水族館に行く。半数以上の利用者の利用があった。	○
令和6年度障害福祉サービス等報酬改定について理解を深め、適切な運営に努めていきます。	報酬改定に伴い、利用時間を適正に申告した。利用時間、加算対象内容を個別支援計画書に記載した。	△

## 《生活介護事業》

### 1. 年間利用実績 ※（ ）昨年度実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数 (人)	男性	38	37	36	36	36	36	36	36	36	37	37	37	438
	女性	19	19	19	19	19	19	20	20	20	20	19	18	231
	計	57	56	55	55	55	55	56	56	56	57	56	55	669
出席率（％）		84.7	81.9	91.5	89.5	79.9	88.4	85.9	86.7	79.0	83.7	84.5	88.5	85.3 (85.3)

※1. 在籍者数は初日在籍数

※2. 出席率は在籍数に対する出席率

### 2. 年間行事

月	日	施設行事
4	1	新入所者歓迎会
	9	保護者会総会
5	22	健康診断
	29	生活セミナー（講師 池田巡査）
	29	防災訓練
6	5	いちご狩り
	20	赤松保育園とじゃがいも掘り交流会
7	10	保護者会
	28	赤松町内夏祭り
8	15	納涼会

10	2	ソフトボール大会			
	6	安城市福祉まつり			
	9	保護者会			
	12	安城市福祉ウォークラリー			
	22	フットベース大会			
	30	防災訓練			
11	6	施設参観			
	7	嘱託医健診・インフルエンザ予防接種			
	13	日帰り旅行 浜名湖パルパル			
	20	日帰り旅行 鈴鹿サーキット			
12	4	町内環境保全活動			
1	6	初詣			
	13	二十歳を祝う会			
	24	赤松町内公民館祭り作品出展			
2	12	保護者会			
3	3	ひなまつり会（赤松保育園）			
	13	お楽しみ会（カラオケ）			
	19	お楽しみ会（ボウリング）			
	21	防災訓練			
	26	お楽しみ会（ボウリング）			
月活動	生け花		ストレッチ	ちぎり絵	整膚
	ぼうビクス		ダンス	血圧測定	体重測定
	嘱託医健診		外食（不定期）		

3. ボランティア受入状況（延べ人） ※（ ）昨年度実績

区 分	計	区 分	計	区 分	計
一 般	4	民 生 委 員	12	高 校 生	78
保 護 者	0	大 学 生	2	生 け 花	22
末広町福祉委員	0	中学生	0	合 計	118（111）

4. 実習生受入状況（延べ人） ※（ ）昨年度実績

区 分	計	区 分	計	区 分	計
中 学 生 職 場	0	大 学 生	142	学 校 教 諭	0
特別支援学校	10	高 校 生	16	看護専門学校	20
慈恵福祉保育	25			合 計	213 (186)

5. 作業内容（作業別収入） ※（ ）昨年度実績

取 引 先	売上高（円）	内 容
農作物	128,540	農作物の販売
タクマ産業（有）	939,840	自動車部品（ウレタン）選別
菓子製造（パウンドケーキ）	1,201,506	菓子の製造・販売
菓子製造（パン）	18,650	菓子の製造・販売
自主製品	9,200	カレンダー製造・販売
富士カーボン（株）	462,882	自動車部品の加工
ホームドライサカエ	172,900	チャイルドシート洗浄
安城市（清掃事業所）	141,900	段ボールコンポスト製造・販売
安城市（清掃事業所）	3,432,000	E Mボカシの製造・配達
安城市（維持管理課）	13,000	リサイクル自転車の清掃
安城市（清掃事業所）	15,338,532	ペットボトル仕分け作業
富士見屋	773,637	委託販売（せんべい）
七タペットボトル	195,130	洗浄
アルミ缶販売（安城貿易）	18,840	アルミ缶回収
（株）アチーブ	317,240	自動車部品加工
（株）杉本商会	241,340	販促商品（ゴミ袋）封入作業
（株）フォーユー商品	125,451	委託販売（マカデミアナッツボール）
（株）神谷コンクリート	30,853	パッキンはめ
フジイ化工（株）	124,850	キャップアートパネル
（株）サンブロードケミカル	76,125	自動車部品拭きあげ作業
デンソー（株）高棚製作所	39,600	エコキャップパネル作成
（有）クズハラゴム	643,645	バリ取り作業
安城市指定ゴミ袋販売	352,250	安城市指定ゴミ袋の販売
（有）山本鉄工所	78,390	浄水器の部品加工



(株) ビレッジ開発	7,774	トマトパッケージのシール貼り
七夕短冊	141,360	安城印刷・安城青年会議所
その他	26,570	置物販売・巾着・ヒマワリの種・(有)わかば
合計	25,048,485	(24,171,652円)

## 6. 工賃支給実績

4月～3月工賃支給額計11,954,332円（前年度11,285,924円）

1ヶ月平均工賃支給額21,106円（前年度20,313円）

※1人あたり・賞与含む・小数点以下四捨五入

《日中一時支援事業》

### 1. 事業内容

(1) 日中における活動の場を確保し、利用者の情緒安定を図ると共に、家族のレスパイトを目的に事業を行った。

### 2. 年間利用実績（延べ人）※（）昨年度実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者数	15	16	18	24	17	18	17	17	17	17	16	17	209 (166)

## IV. まるくてワークス

### 《総括》

令和6年度は、安城特別支援学校から男性2名、女性1名の計3名の卒業生を迎え、55名でスタートした。新型コロナウイルス感染症の影響も少なくなり、施設行事もほぼ予定どおり実施できた。池浦町内会主催の「ほっとサロン」やぬくもりの郷との「ボッチャ大会」、ぬくもりワークスと合同で県福祉協会主催の「ソフトボール大会」に参加など法人内施設間の交流も復活し、利用者さんの楽しみにつながり、平均出席率も前年度より約4%増え86.8%となった。また、強度行動障害の利用者の方が落ち着いて過ごせるように更衣室を利用して個室に変更、施設外に出ていってしまう利用者には倉庫を片付けて気分転換できるような場を設けるなど、利用者の障害特性を踏まえた上で環境改善を試みていたが、個別支援が必要な利用者の対応については課題が残る。

授産事業は、作業量が増えなかったことと作業を好まない利用者の方が年々増えてきていることもあって、1か月平均工賃支給額も増えなかった。次年度以降の方針について、職員で話し合っていく。

人材の定着については、高卒の新人職員に先輩職員がメンターとなり、全員で育成・定着に努めた。専門知識や権利擁護は、課ごとのミーティング時にWEB学習を視聴して知識の習得と意識の向上に努めた。しかしながら、年度末で常勤1名が退職、非常勤職員も家庭の事情や本人の体調不良などで退職や休職が重なり、求人を出しても非常勤が定着しない厳しい状況が年度末まで続いた。

### 1. 重点目標に対しての評価 評価：○できた・△だいたいできた・×できなかった

#### (1) 利用者満足の向上と健康管理を図ります。

年間計画	取り組み	評価
個別支援計画は、ストレングスに着眼して作成し実施していきます。	個別面談時には、家庭での様子や学生時代の聴き取りを行い、手伝いや余暇支援、活動に取り入れるようにしているが、まだ全員に対してできていない。	△
利用者さん一人ひとりの「個性」を尊重し、意思決定支援にもとづいたサービスを心がけます。	活動の選択は、基本的には利用者の「やりたい」や「思い」を大切に取り組むように心がけているが、実際できていないこともある。	△
サークル活動や作業の選択など意思を表出する場を設けていきます。また、サークル活動で作成した作品は、施設内での展示及び公民館祭りなどに出席して創作意欲を高められるよう取り組みます。	作業や活動は選択をする機会を設けるように取り組んでいる。サークル活動での作品は、町内会主催の文化祭や地域の公民館祭に出席し創作意欲の向上につなげることが出来ている。	○
利用者満足度アンケートや第三者評価（自己評価）結果を見直し、改善に向けた取り	毎年利用者満足度調査を行い、利用者さん及び保護者さんの意見から改善できるとこ	○

組みを実施しサービス向上に反映させていきます。	ろは改善し、サービスの向上につながるよう努力はしている。	
看護師を中心として健康状態の把握（体重、検温、血圧測定、嘱託医検診、健康診断、歯科検診）感染症予防に努め、定期的に専門職（OT）の指導の下、機能低下防止と体力維持に取り組みます。	毎月体重測定と月に2回の血圧測定の実施をしている。また、嘱託医による検診も毎月実施できている。その他にも歯科検診、インフルエンザ予防接種も実施した。OTの指導を月に1度受け、機能低下防止を中心に動きの改善を実施することで体力維持につなげることができている。	○

（２）地域との連携の推進と強化を図ります。

年間計画	取り組み	評価
災害時においては、行政と特定福祉避難所としての協力体制を連携し、防災力の強化を図り、防災意識の高揚を図ります。	食料や水の備蓄、市の防災倉庫の設置、市主催の無線訓練に参加する等防災力の意識を高めている。今年度は、町内会の防災訓練に一部利用者と職員が参加したが連携強化までには至っていない。	△
民生委員や中・高校生等のボランティアを積極的に受け入れ、障害福祉の理解促進を図ります。	ボランティアや民生委員などの受け入れをおこなった。ボランティアには、施設の案内と役割を説明することで理解促進を図ることに努めている。	○
池浦町内会など地域とのつながりを大切にするとともに、福祉まつりや市内の公民館祭り等の販売会に、希望された利用者さんと自主製品の販売や展示等で積極的に参加をして地域交流を図ります。	町内会行事に施設の場所を貸し出しや「ほっとサロン」「町内文化祭」など町内会主催の行事に参加する事で、地域とのつながりを大切にすることができている。また、市内の公民館まつり・福祉センターまつりに出店販売して地域交流ができている。	○

（３）人材の育成とチーム力向上

年間計画	取り組み	評価
社会福祉士や介護福祉士等の実習生を受け入れ、福祉人材の育成と確保に努めます。人事考課基準に基づき、法人理念や基本方針の理解を深め「法人の求める人材像」に向けての育成に努めます。	同朋大学、東京福祉大学を中心に積極的に受け入れができている。また、法人が求める人材像に向けて、研修や会議、人事考課などの機会に普段の支援姿勢や業務についてフィードバックを通し育成に努めている。	○
WEB学習「サポーターズ・カレッジ」や福祉協会等の研修をとおして専門的知識や	課のミーティングの際にサポカレ視聴による研修を行い、また、協会の研修にも参加	○

権利擁護意識の習得と向上に努め、スキルの向上を図ります。	し知識スキルの向上の取組を行っている。	
<u>支援員は権利擁護意識と支援スキルの向上のために、次のことを実践します。</u> ①挨拶は笑顔で明るく元気よく、常に傾聴姿勢で支援を心がけます。 ②利用者さんは一人の大人として過度なスキンシップを控え、適切な距離感を取り接します。 ③機能の維持・向上のために、できることは本人にさせていただきながら見守りつつ必要なサポートを心がけます。	課のミーティングや朝礼・終礼の際での学びや情報共有により支援を見直しスキル向上への実践は行っているが、挨拶は笑顔で明るく元気よく行えていない支援者が見られた。まだ、利用者を「一人の大人として接する」ことが徹底できていない。	△
職員は、ミーティング・ケース検討会議をとおして情報共有をし、合意形成のうえチーム支援を行えるよう努めます。	支援方法の変更についてはスピード感を持って行うことができていたが、終礼等の場面で決まり記録として残ることが少なかった。非常勤職員までの落とし込みの精度に課題があり、合意形成が不十分である。	△

(4) 安定した運営を目指します。

年間計画	取り組み	評価
特別支援学校等の実習生の受入れや相談支援事業所と連携をして、新規利用者の増員を目指します。	安特実習や共生のまち部会による「進路を考える会」の参加により、新規利用者3名契約できている。	○
定期的に開催される「経営改善会議」に参加して現状を共有し、収益の改善に努めます。利用者の出席率80%以上を目指します。また、日中一時支援も積極的に受け入れて行きます。	業務改善会議を実施して振り返りを行った。日中一時支援も積極的な受け入れができている。コロナ禍の時のような自粛でのお休みはほとんどなく、在宅で過ごしている方の利用日数の増加もあったが、冬季にインフルエンザ・コロナウイルスの流行もあったが、出席率86%以上達成できた。	○
遵守事項（特に服務規律とリスクマネジメント、コストなど）を念頭におき、意識を持って業務にあたります。	リスクマネジメントに関しては、提出しやすい仕組み作りと正しい知識の伝達により、職員の意識改革ができ大幅に提出件数が増加した。残業申請など守れていないことが見られた。	△
<u>障害福祉サービス等報酬改定に伴い、基本的な方向性について理解を深め、事業所に求められる対応を検討し実施していきます。</u>	施設長・主任会議で情報共有しながら、現場職員へも伝え、対応の検討と実施を行い、新たに送迎加算の取得に向け送迎体制を整えた。事業所として基本的に加算の取	○

	得をする方向性について理解を深めた。	
--	--------------------	--

## 《生活介護事業》

### 1. 年間利用実績 ※（ ）昨年度実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍 者数 (人)	男性	31	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	361
	女性	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288
	計	55	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	649
出席率（％）		86.2	84.8	90.1	88.5	78.1	88.1	88.8	87.3	87.2	86.2	88.2	87.6	86.8 (82.1%)

※ 1. 在籍者数は初日在籍数

※ 2. 出席率は在籍数に対する出席率

### 2. 保護者との連携

- (1) 3ヶ月ごとの保護者会開催
- (2) 第3回保護者会では、利用者に行っているアロマを保護者へ体験の機会を設けた。
- (3) 年2回の三者面談（モニタリング）をとおして利用者本位の支援の連携強化。

### 3. 年間行事

月	日	施 設 行 事
4	1	入所式
	9	保護者会総会
5	3	まるくてウォーキング
	20	健康診断（半田医師会）
	24	避難訓練・お楽しみランチ
6	3	いちご狩り
	28	親睦会（碧南海浜水族館）
7	9	保護者会
	19	シュガーノート鑑賞会
8	2	安城七夕まつり散策
	16	納涼会（かき氷）

	23	お楽しみランチ
9	6	日帰り旅行(三重県・おやつカンパニー)
	13	日帰り旅行(豊橋市・のんほいパーク)
	19	歯科検診
10	2	福祉協会ソフトボール大会(ぬくもりワークス合同チーム)
	8	保護者会
	15	防災訓練(安城消防署にて)
	16	名古屋フィルハーモニーコンサート(刈谷)
	22	フットベースボール大会(愛知県知的障害者福祉協会主催)
	31	ハロウィン
11	14	インフルエンザ予防接種
	15	ぬくぬくふれあいコンサート
	20	まるくてウォーキング
	21	お楽しみランチ(2課・3課)
	22	シュガーノートコンサート
	29	お楽しみランチ(1課)
12	3	アンサンブルドルチェコンサート
	17	クリスマス会
1	6	初詣(池浦天満宮)
	10	新成人を祝う会
	14	保護者会
	24	新年会A班(岡崎グランドボウル、焼き肉キング)
	31	新年会B班(岡崎グランドボウル、焼き肉キング)
2	21	お楽しみランチ(2課・3課)
	25	避難訓練
	28	お楽しみランチ(1課)
3	14	お楽しみランチ(2課・3課)
	21	お楽しみランチ(1課)
	25	フラダンス

	28	納会		
月活動	嘱託医検診		サークル活動	体重測定
	ほっとサロン		アイシン／市役所販売	アロマ
				血圧測定
				コミュニティー道路清掃

4. ボランティア受入状況（延べ人） ※（ ）昨年度実績

区 分	計	区 分	計	区 分	計
一般	19(34)	中高大学生	31(10)	専門学校生	0(11)
池浦福祉委員	0(0)	サークル講師	25(20)	民生委員	7(12)
				合 計	82(87)

5. 実習生受入状況（延べ人） ※（ ）昨年度実績

区 分	計	区 分	計	区 分	計
専門学校生	20(42)	大学生	48(24)	特別支援学校	20(21)
高校生	55(32)	中学生	0(16)	合 計	143(135)

6. 授産事業

（１）作業指導のねらい

利用者個々の能力と適応性に応じた作業の技術習得と「はたらく」ことからの喜び・生きがいを実感できるよう支援した。

（２）工賃の支給額を作業状況、生活態度、対人関係を総合的に評価し決定した。

7. 作業内容（作業別収入）

取 引 先	売上高（円）	内 容
自主製品販売	70,720	カレンダー・ポチ袋・ヨーヨーキルト
大見工業(株)	361,020	チップソー防錆液添付・箱詰め
増田煙火(株)	57,501	花火組み付け
都筑技研(株)	561,736	バイク部品組付け
山田製菓(株)	737,370	かりんとう・ドーナツ販売
安城市指定ゴミ袋販売	845,190	燃やせるゴミ袋等
(株)安城ポリエチレン	24,473	生花用ラッピング袋取りまとめ
(株)サカキバラコーポレーション	142,084	ゴム部品バリ取り
コーヒー豆	811,586	自家焙煎珈琲製造販売・豆チョコ
(株)ヤマノ	160,120	ナッツ販売

杉本商会(株)	96,255	新聞店販促品(安城市指定ごみ袋詰め)
銀のさら	23,050	箸、醤油皿袋詰め
(株)アチーブ	322,072	自動車部品パッキンはめ
安城市(清掃事業所)	277,600	土嚢袋にスタンプ押し作業
その他	103,890	農作物・コミュニティ道路・アルミ缶等
合 計	4,594,667	

## 8. 工賃支給実績

4月～3月工賃支給額計 1,486,146円 (前年度 1,696,018円)

1ヶ月平均工賃支給額 2,641円 (前年度 3,205円)

※1人あたり・賞与含む・小数点以下四捨五入

## 《日中一時支援事業》

### 1. 事業内容

(1) 特別支援学校生や在宅又は就労等している障害者の平日の日中における活動の場を提供し、簡単な相談を受けながら情緒の安定と本人の居場所をつくるとともに家族のレスパイトを目的に事業を行った。

### 2. 年間利用実績(延べ人) ※ ( ) 昨年度実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者数	22	41	20	19	19	17	19	11	15	13	15	20	231 (258)



## V. アットホーム

### 《総括》

男性スタッフ2名が入院・手術などで長期間業務から離脱する事があったが、他事業所の協力やスタッフ間のチームワークで利用者の暮らしを守ることができた。また、6月にはめろんぱん世話人2名が退職することがあったが、偶然にも世話人経験者2名を新規採用するができ、利用者の暮らしを守ることができた。

ホームぬくもりで1名の利用者が新型コロナにり患されたが、重症化や後遺症も見られず一定期間の静養でおさまった。新型コロナの5類移行によりホームを閉鎖することもなく他の利用者はこれまで通り安定した利用ができた。

各ホームの保護者会を通してホームの利用について積極的な利用を促し、わずかながら稼働率が上がった。

11月には赤い羽根共同募金文化活動費助成を利用して、親睦バス旅行を催し参加者には好評であった。

2月に愛知県の運営指導を受けた。減算などの指摘はなかったものの、いくつかの改善事項をいただいたので今後は改善に取り組む。

### 1. 重点目標に対しての評価 評価：○できた・△だいたいできた・×できなかった

#### (1) 自分らしい暮らしの支援

年間計画	取り組み	評価
日頃から利用者様のストレングスに着目した支援をします。また、個別支援計画にも本人の持つ個性やストレングスを盛り込み、それを活かして自分らしい生活ができるよう支援します。	支援計画に基づき、本人ができることは可能な限り本人に行っていただき、必要な時はそっとサポートした。役割を持っていただき「役に立っている実感」得られるように支援を行った。ただ、全員が支援計画を意識して支援していたかは疑問が残る。	△
充実したオフタイムを大切に「自分の家」で暮らしているようなホッとした気持ちになれるホームを目指します。	リビングや居室など、ご自分の気持ちのまま好きな時に好きな居場所で好きなことをするなど、各利用者が思い思いにリラックスして過ごすことができていた。	○
「やりたくない」の気持ちも大切にして無理な押しつけはしません。	基本的には利用者の意向を尊重しているので押しつけることはないが、業務時間とのバランスのとり方の難しさを感じた。	△

#### (2) 安心した暮らしと健康管理

年間計画	取り組み	評価
より質の高い個別支援計画によるサービス実践により満足度を高めます。	対面による個別面談を通して利用者・保護者との意思疎通も取りやすかった。個別支	△

	援計画を利用者本人にわかりやすくするため引き続きイラストや写真を挿入した個別支援計画書を作成し好評であったが全利用者に行き届いているわけではない。	
サービス管理責任者とスタッフ間の報・連・相を徹底し情報が円滑に伝わるよう努めます。またその方法を探求していきます。	対面の打ち合わせや電話、LINE等での報告・連絡・相談を行ってきた。また毎週のフェイスタイムをZoomで行い、情報共有できる機会を確保できた。ただし情報共有がすべて正しく行き渡ったかは不明なので今後の課題とする。	△
自己評価を通し、自らのサービスを見直す機会を設けて現在ある課題を見極め改善することでよりよいサービス提供に努めていきます。	今年度も事業所内での自己評価であった。細かく点検していくとまだまだ改善の余地があると感じられる。常日頃から改善の意識をもつ必要がある。	△
訪問看護や関係スタッフとの連携により、感染症予防と健康管理に努めます。また、コロナ禍で行動が制限される中でも、ホームで楽しく過ごせるよう工夫します。	今年度も利用者・スタッフともにインフルエンザワクチン接種を全員済ますことができた。インフルエンザに罹患する利用者・スタッフはいなかった。ホームぬくもりで1名が新型コロナの陽性者が出たが幸い重症化することはなかった。	○
定期的な避難訓練や防災備品の配備を行い、災害時に備えます。	各ホーム年3回の避難訓練を実施。また各ホームでBCPに関する動画を複数視聴するなど防災意識を高めることができた。	○

### (3) 権利擁護意識の向上

年間計画	取り組み	評価
啓発ポスターの掲示などを通して、利用者さんには「〇〇さん」と呼ぶことを徹底します。	多くの場面で確実に「さん」付けで呼んでいるが、まだ一部の職員が「ちゃん」「くん」で呼ぶ場面がみられた。	△
各ホームスタッフが一同に集ってのミーティングを行い、情報共有や親交を深めます。	ホームごとにミーティングは行われているが、全スタッフが集まる機会はなかった。	×
インターネットを使った「サポーターズカレッジ」の講座視聴や研修参加などを通して利用者の権利擁護意識を高め、スタッフ	各ホーム毎月のミーティングの際にほぼ視聴した。非常勤職員の意見を聞きながら興味があったり、支援に関連したりする講座	△

一人一人の育成を続けていきます。	を選択した。 県の虐待防止・権利擁護研修に参加し、ミーティング等で報告・再確認をした。ただ、内部的には虐待防止委員会・身体拘束適正化検討委員会の動きが鈍く、より活性化するのが次年度への課題である。	
安城市自立支援協議会と協働して、支援者を育成するための講座を開催します。またホームに関する啓発活動を通じて人材確保にも努めます。	今年度は「くらしグループ」へはオンラインでの参加を行なった。 「くらしグループ」でのホーム見学会の企画はなかった。	△

#### (4) 健全な財務規律の確立

年間計画	取り組み	評価
法人の事業計画に基づき事業所内においても定期的に現状把握と経営課題の点検、分析、改善をめざします。具体的には1～4の実践および利用定員を満たすことに努め、稼働率をアップさせます。また、重度障害者支援加算等の加算を可能な限り取得するよう努めます。	今年度は利用者の退去や入居はなく定員（14名）通りの利用ができた。 各ホームの保護者会や個別面談では、ホームの利用について積極的な利用を促し、利用率のアップにつながった。	○

#### 《共同生活援助事業》

##### 1. 年間利用実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数 (人)	男性	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	108
	女性	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
	計	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168

※1. 在籍者数は初日在籍数

※2. めろんぱん（定員5名）・ホームぬくもり（定員4名）・こやまホーム（定員5名）

## VI. ぬくもりの郷

### 《総括》

ぬくもりの郷は、利用者の生活を総合的に支援することを目的とした事業所であり、本来別の事業である生活介護事業、共同生活援助事業、短期入所事業、日中一時支援事業が有機的に連携できる仕組みづくりに努めてきた。

令和3年度より生活介護事業所が放課後等デイサービスとの多機能事業所となっている。職員同士の連携はもちろんのこと、障害児を指導することにより障害者福祉の学びを深める契機となり互いに相乗効果が出せるようにしてきた。

新型コロナウイルス感染症の分類が2類から季節性インフルエンザ相当の5類に移行して1年が経過し、活動もコロナ禍以前と変わらず行えるようになったこともあり、活動の幅が広がり、利用者満足も高めることができたと思われる。また、感染症発生時に備えた平時からの対応を取り決めるよう努め、特に感染症や災害が発生した場合であっても必要なサービスを継続的に提供できる体制の見直しを進めた。引き続き、感染症を想定した「セーフティーネット」としての事業所の役割を果たしていきたい。

生活介護事業は、在籍者数のうち併用利用者が増え、毎日増減する中で例年との単純比較は困難であるが、出席率は72.1%の利用となり、わずかながらではあるが前年比7.2%の減となった。

共同生活援助事業は、12月に新型コロナウイルス感染症の感染者が出たが、コロナ禍の支援で得た経験を活かし、大事に至ることなく過ごすことができた。さらなる有事に備え、スタッフの意識、様々な知識の共有を目指し、サービスの低下を招かないよう、支援体制の充実を図りたい。

日中一時、短期入所は、一昨年度に感染症対策に注力するため、緊急以外の利用を控えてもらうよう協力をお願いしたこともあったが、令和6年度は通常年度と同様に事業を行うことができた。

緊急時の受入れについては、希望のあった利用者はすべての受入れを行っており、日中一時、短期入所とも、セーフティーネットとしての役割、地域生活支援拠点の一躍を担うことができたと思われる。

放課後等デイサービスは、サービスを開始して4年目となり、固定の利用児の利用、相談支援事業所等からの紹介で契約者も増え、毎日の利用児の数も安定し、前年同様の利用となっている。引き続き利用児にはまた来たいと思わせる魅力的なカリキュラム、質の高いサービスの提供を通じて、ファンを一人でも増やしていけるよう務めていきたい。

### 1. 重点目標に対しての評価 評価：○できた・△だいたいできた・×できなかった

#### (1) サービスの質の向上

年間計画	取り組み	評価
利用者の人権を尊重し、個人の尊厳を守ることの重要性について認識が深められるよう研修等を通じて、虐待防止法など社会的ルールへの遵守の普及・啓発に努めます。	虐待防止について常勤職員を対象に定期的に啓蒙し、非常勤職員に対してはオンライン学習によって理解を深めた。事業所毎の委員会の取り組みは消極的なところがみられる。	△
現在のサービスが的確に行われているか確認するため、福祉サービス自己評価の実施、利用者満足度調査を実施します。	第三者評価の結果を受け、要改善点はすみやかに改善するよう努め自己評価に反映させた。利用者満足度調査は、前年度同様行い、ほぼ満足しているとの結果になった。	○

利用者の重度、高齢化の対応を的確にできるよう、支援力、介護力ともに質の高い人材の教育育成に取り組めます。	高齢障害者への取り組みは研修等の派遣により実施したが、知識と実際のサービスの提供が伴わなかった。	△
グループホームにおける支援の質の確保（地域との連携）策として、事業所に「地域連携推進会議」設置が求められるため、それにかかる準備を進めます。	地域連携推進会議のメンバーを決め、それぞれ就任の内諾を得て、翌年度の発足に向けた準備を進めた。	○

## （２）地域との交流と連携

年間計画	取り組み	評価
実習生・職場体験等の学校教育への協力、ボランティアの育成、地域住民との交流等を通じて、地域の福祉に対する理解を促進し、地域における福祉文化の醸成に取り組めます。	実習生等の受け入れは前年度同様行っており、その都度実習生に感想を聞き、知的障害者福祉への理解の深まりを感じることができた。	○
安城市の地域生活支援拠点等の一翼を担うため、緊急時の受入体制を整えます。	コーディネーターとの連携をとりつつ、４件10日の利用があり一定の役割を果たした。	○

## （３）生活環境・利用環境の向上

年間計画	取り組み	評価
新型コロナウイルス感染症をはじめとした感染症の予防・拡大防止対策を徹底し、コロナ禍の中でも利用者に楽しんでもらえるような活動を提案していきます。	第２類から５類相当に移行したことで、外に出る機会を増やしてきた。感染防止に配慮しつつ、日帰り旅行も実施した。	○

## （４）人材の育成・確保・定着

年間計画	取り組み	評価
労務管理における責任体制を明確にし、適正な労使関係の構築に努めるとともに、一般事業主行動計画の確実な実施により職員一人ひとりが働きやすい職場環境づくりに努め、定着に繋げていきます。	シフト制で不規則になりがちな勤務をなるべく職員に希望に添えるような勤務体制づくりに努めた。超過勤務時間が前年比27%増の1,312時間となったが、有給休暇の取得率は前年の66.57%から100.35%と大きく上がった。	△
ＯＪＴ（職務を通じての研修）を「職場研修の基本」に位置づけるとともに、一人ひとりの職員の成長段階に応じた仕事量の配分とそこで必要となる教育、研修の実施を行います。	支援のみならず介護技術の向上を図るよう取り組んできたが、より計画的に行う必要があった。対面研修が少なくなっている中、その代替としてオンライン学習を進めたが、積極的な学習はみられず、計画どおり進まなかった。	△

## （５）安定した財務基盤の構築

年間計画	取り組み	評価
常に利用者サービスを中心にした事業展開が図るとともに、現在の報酬体系の理解、利用者の支援区分の把握、介護保険制度との連携を通じて、適切な収益性の確保に向け、その事業の将来性、継続性を見通した計画的かつ効率的な事業運営を行います。生活介護事業の稼働率は90%を目指し、グループホームは、現員を定員の100%を維持します。	利用者満足度を高めつつ、稼働率を増やせるよう取り組んだが、併用利用者の関係もあり稼働率は前年の79.3%から72.1%となり、目標に達しなかった。グループホームは定員の100%を達成した。	△
定期的にチームとして事業所の経営課題の把握と分析に努め、表出された経営課題を「法人経営改善会議」につなげる取り組みをしていきます。	現在の報酬体系で加算のとれるものは積極的に取り組みを行い、計画的な運営を目指す工夫をしたつもりだが、職員一人ひとりへ浸透するまで至らなかった。	△
令和6年度障害福祉サービス等報酬改定の基本的な方向性についての理解を深め、事業所が求められる対応の確実な実施をしていきます。	報酬体系が加算で評価する方向に変わったため、そこで得られる加算をなるべく取得するように努めた。	○

## 《生活介護事業》

### 1. 年間利用実績 ※（ ）昨年度実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数 (人)	男性	9	8	8	9	9	8	8	8	10	9	8	8	109
	女性	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	10	108
	計	17	18	18	18	18	18	18	18	19	18	18	19	217
出席率 (%)		75.6	66.6	70.2	73.6	72.7	74.6	76.3	75.3	63.6	74.5	75.3	69.9	72.1 (79.3)

※1. 在籍者数は初日在籍数

※2. 出席率は在籍数に対する出席率

### 2. 年間行事

月	日	施 設 行 事
5	31	健康診断
6	10	いちご狩り
	21	避難訓練
	27	歯科検診

7	23	ボッチャ交流会			
8	30	夏まつり			
9	16	電車体験			
10	7	電車体験			
	16	福祉コンサート			
	25	日帰り旅行(南知多ビーチランド			
	31	ハロウィン			
11	8	電車体験			
	21	避難訓練			
	22	シュガーノートライブ			
1	17	新年会			
	25	ボッチャ大会			
2	3	節分			
	14	お楽しみ会(クリスマス会の代替)			
	28	フラダンス			
3	14	シュガーノートライブ			
	17	避難訓練			
月活動		誕生日外出	わくわくランチ	チャレンジスポーツ	アート書道
		音楽療法	リラクゼーション	個別活動	機能訓練
		嘱託医健診	調理実習	わくわくツアー	

### 3. ボランティア受入状況 (延べ人)

区 分	計	区 分	計	区 分	計
一般	8	大学・専門学校	4	サークル講師	0
民生委員	13	高校生	7	文化交流団体	28
中 学 生	0	小 学 生	4	合 計	64 (72)

### 4. 実習生受入状況 (延べ人)

区 分	計	区 分	計	区 分	計
社会福祉士実習	55	教員介護体験実習	50	福祉科高校生	22
看護学生	20	インターンシップ	1	合 計	148 (166)

《共同生活援助事業》

1. 事業内容

(1) 利用者が自立を目指し、地域において共同生活を営むことができるように個別支援計画を作成し、それに基づき世話人等より生活する上で苦手な部分（食事や健康管理等）の支援を受け、安心して生活できるよう努めた。

(2) 地域とのつながりを大切にするため町内会に加入し、町内一斉清掃、防災訓練等の地域が開催する行事に可能な限り参加するなど地域住民と理解を深めるよう努めた。

2. 年間利用実績 ※（ ）昨年度実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍 者数 (人)	男性	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156
	女性	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84
	計	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240 (240)

《短期入所事業》

1. 事業内容

(1) 居宅において介護を行う者の疾病その他の理由により、短期間の入所を必要とする利用者に対し、その利用者の身体その他の状況及びその置かれている環境に応じて必要な支援を行った。

主には「家族の入院」「家族の不幸」などの緊急時対応と「将来に向けて宿泊訓練がしたい」という希望、さらには「家族の介護負担の軽減」のニーズがあり、なるべくニーズに応えるよう努めた。

(2) グループホームとの併設型であるため、グループホーム利用者の生活の安定を優先し、受け入れも安全を十分に配慮するように努めた。

2. 利用実績（延べ人） ※（ ）昨年度実績

事業所名	家	ワ	ま	郷	虹	他	計
利用者数	217(146)	128(274)	110(90)	12(6)	0(2)	0(3)	467 (520)

《日中一時支援事業》

1. 事業内容

(1) 日中における活動の場を確保し、利用者の情緒安定を図ると共に、家族のレスパイトを目的に事業を行った。

2. 利用実績（延べ人） ※（ ）昨年度実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	---	---	---	---



利用者数	147	143	164	144	175	165	158	180	160	162	137	171	1,906 (1,873)
------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------------------

《放課後等デイサービスぬくっこ》

1. 事業内容

(1) 13歳から18歳を対象とし、学校終了後及び、祝日・長期休暇に利用してもらい、日常生活における基本的動作や知識技能の習得とともに、集団生活に適応することができるよう、利用児童に合わせた支援を行った。

(2) 体力向上を目的とし、歩行や外遊びなど身体を動かす時間を設けた。

(3) 学校卒業後のライフステージを見据えた課題の設定や、法人内の成人施設への体験利用の機会を提供した。

(4) さまざまな経験を得られるよう、特に長期休暇中にイベント（水族館や動物園へのお出かけや、あんくるバスの利用・買い物体験など）を企画、実行した。

2. 利用実績（延べ人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者数	180	201	171	196	135	186	193	184	171	181	170	160	2,128

（昨年度実績：2,175人）

## VIII. 相談支援事業所 めくもり

### 《総括》

令和6年度は、契約者226名の計画相談を常勤2人で対応することになり、とても厳しい勤務状況であった。年度末には、主任が退職となり大きな痛手となった。

事業計画の基本方針に基づき、個人としての「希望する生活」を具体化することや「希望って何？」という、保護の対象として積み重ねてきた経験等の影響による「潜在的なあきらめ感」にも目を向け、ケアマネジメントの手法にて計画相談支援を行った。昨今は、利用者を取り巻く環境にも大きな変化がある方が増え、本人のみならず家庭への支援や助言、関係機関との調整・連絡等その方々に費やす時間が大きくなってきている。場合によっては、休日に対応しなければならないこともあり、年々困難な事案が増えてきており、行政や基幹センターとの連携が不可欠となってきた。

事業改善計画に基づき、加算項目を検討してきたが、取得することによって職員の業務が増え、疲弊に繋がることと相談支援の質を担保できないことから取得は見送った。

今年度も引き続き将来への道筋づくりとして、自立支援協議会そうだんグループのアドバイザー、愛知県相談支援専門員初任者研修の講師等、地域の相談体制づくりに関係する依頼も指定特定相談支援の立場の範囲を超えて地域の相談支援体制づくりと人材育成の役割を担った。

今後の課題として、「相談支援の質の向上」と「地域の相談支援体制の強化」に向けて、人材の育成と相談支援専門員を確保することが急務であると考えている。

### 1. 重点目標に対する評価 評価：○できた・△だいたいできた・×できなかった

#### (1) 「本人中心」の相談支援に努めます

年間計画	取り組み	評価
日常の基本相談支援を基盤として、サービス提供事業所とのアセスメント共有を行い、家族・支援者の本人理解を深めます。提供するサービス等利用計画の評価を行い、必要に応じて改善を図ります。	計画相談の月に関わらず当事者及び家族、関係者から近況を伺う機会をつくった。また、携帯電話を活用し「いつでも相談できるんだ」という心理的安全を実感し過ごすことができるように環境づくりを行った。結果、当事者にとって「この方法をとるしかない」や「想像を超えるような手法」にて対応を行う機会はなかった。支援関係者においても同様の状況をつくることができたが、相談員によってばらつきがある。	△
相談者の生活歴、家庭風土を理解し、価値観や自己決定を尊重した支援と体験の積み重ねによる意思表示と本人の持つ力を活用するよう心掛けて「意思決定支援」に努めます。	日々の積み重ねの中で「聴くこと」「まずは協力する」を続けてきたことで、契約者のみならず、家族からも「こんなことができました」や「昔は・・・」という自発的な表現、情報を得られる機会が増えた。意思決定支援のガイドラインに則り、ストレングスモデル、エンパワメントの視点を重視した相談支援を行い計画書等に反映させるようにしているが、まだ、人によ	△

	って意思形成や意思表出支援に課題が残っている。	
--	-------------------------	--

(2) 利用者の生活の質の向上と関係機関との「連携」

年間計画	取り組み	評価
「サービス担当者会議」で共有された支援による利用者の希望する生活の実現と体験を通して変わりゆく価値観に寄り添い、本人を中心とした支援チームがスムーズに役割を果たすことができるよう総合的に各種機関、地域のインフォーマルな資源との連携・調整を行います。	サービス等利用計画書をベースに支援関係者と短期目標に重点を置いて支援調整を行った。その場の雰囲気や各個人（事業所のみ）の考えで「良かれ」と共有範囲を超えた考えで支援することへの注意喚起を促した。また、合理的配慮の義務化について共有を行い、一方的な関係を防ぐために制度を根拠に合意形成を行った。サービス調整を行うことが中心となり、地域のインフォーマル資源との連携までに至った件数はあまりない。	△

(3) 地域課題の情報収集と社会資源の改善・開発の提案

年間計画	取り組み	評価
「個別支援会議」や「サービス担当者会議」等において表出された個別のニーズから、社会資源の改善や開発につながるように、福祉サービス事業所等とともに、地域課題の解決に向けて発信します。	今年度も自立支援協議会そうだんグループの役員を担い、サービス担当者会議や面談時に表出された「生きづらさ」や障害を理由とする参加機会への制限をそうだんグループで「個別ケースから得た当事者の困りごと」を主としたグループワークの開催に繋げた。結果、支援者目線に偏った話し合いが慣習として行われていた地域課題の抽出手法と併せて「当事者の声」を「共生のまち部会」へ地域課題として報告ができた。	○

(4) 専門スキルの研鑽とモニタリング精度の向上

年間計画	取り組み	評価
定期的(毎月1回)にミーティングを行い、現状の課題や担当者が不在時にもスムーズに対応できるように利用者の情報共有をします。また、利用者の基本情報理解の範囲を広げ、複数の視点で生活状況や支援経過を確認・検証することで、計画相談支援の質の向上に努めます。	単なる情報共有や報告の場とならないようスーパービジョンの役割を意識して毎月ミーティングを行った。それぞれ自身の支援見直しや知識(理解)の不足への気づきにつながり、支援スキル(知識、技術)向上への参考となり、日常の相談支援、計画書類作成に反映させることができたが、アセスメントシートの作成、サービス担当者会議の記録等書類に残すべき義務を果	△

	たすことができていないため、改善課題が残っている。	
自立支援協議会や愛知県相談支援専門員協会等の研修会に必要な応じて参加し、人材育成及び地域課題等の問題解決力と相談支援専門員の質の向上に取り組めます。	安城市自立支援協議会そうだんグループ役員と共生のまち部会参加を通して地域の情報共有や課題抽出、解決に向けて発信、共有を行った。愛知県相談支援従事者初任者研修の講師を務め愛知県の相談支援者人材育成に協力し、相談支援知識、技術向上の機会となった。現任者研修を受講して資格更新し、地域課題等に対しての問題解決力など改めて相談支援専門員の役割を学んだが、まだ意識改革が必要である。	△

#### (5) 運営状況の確認

年間計画	取り組み	評価
定期的開催される「経営改善会議」に参加して現状を共有し、加算取得の検討とコスト削減に努めます。さらに、安城市からの補助金補助率の見直しを働きかけていきます。	経営改善会議は行われなかったが、施設長主任会議にて随時共有した。自立支援協議会のそうだんグループにて、安城市の相談支援体制の計画的な人材育成や委託事業について意見、提案を行った。	△
障害福祉サービス等報酬改定に伴い、基本的な方向性について理解を深め、事業所に求められる対応を確実に実施していきます。	報酬の改定に伴い、相談支援事業所の責務の範囲の拡大について、ミーティング時に発信共有を行った。基本的な方向性について理解を深める努力はしているが、事業所に求められる対応には至っていない。	△

## 2. 契約者数（人）

令和6年度利用契約者（令和5年度契約者数）

・ぬくもりの家	27名（28名）	・ぬくもりワークス	41名（44名）
・まるくてワークス	41名（43名）	・ぬくもりの郷	13名（13名）
・アットホーム	0名（0名）	・安城市虹の家	9名（9名）
・法人外利用者	95名（88名）		

合計 226名（225名）

#### (1) 変動理由（利用者増）

##### ア. 法人内利用者

- ・新規契約 1名
- ・相談支援事業所の変更 0名

##### イ. 法人外利用者

- ・新規契約 2名

#### (2) 変動理由（利用者減）

##### ア. 契約終了 2名

### 3. 事業報告

#### (1) 研修参加

- ・相談支援現任者研修 林
- ・強度行動障害支援者養成研修（基礎・実践） 林
- ・在宅医療、介護連携のための研修会  
「重層的支援体制事業を知る」 野村
- ・相談支援専門員初任者研修（講師） 野村

#### (2) 自立支援協議会 そうだんグループ

- ・毎月 1 回、定例会議に参加  
例外的支給決定の検討、総合的専門的な相談支援の実施、地域課題の抽出等を話し合った。

## VII. 安城市虹の家

### 《総括》

18名で4月をスタートしましたが4月に1名の方が退所され、7月に1名の方が入所されました。ぬくもり福祉会の指定管理終了の影響もあり、9月、12月、3月に1名ずつ退所され、年度末には15名とった。本人の不利益とならないように本人の意向を確認しながらスムーズに移行できるよう、個別に話し合いを行うなど寄り添った支援に心掛けた。

ホリデー企画では自治会を開催し、「みんなで話し合って決める、実行する、課題を次に活かす」を意識した。YouTubeでボッチャのルールを事前に学んでから実際にゲームを行うなど意思形成支援として今まで行っていないことを支援者より提案し、新たな楽しみの1つとなった。また社会体験として岡崎のカクキュー（八丁味噌）へ工場見学に行き、普段食べている味噌ができるまでの工程を学び、赤みそと八丁味噌の違いを体験した。

調理実習ではホットケーキやクレープなど、自由に作るのではなく規定量があることや美味しく作る為のコツなどを事前に学習してから実際に作って食べたところ、規定量よりも多く入れてしまうと美味しくないとすることも学んだ。

作業においては利用者のやりたいを大切に希望する方には新しい工程や新しい作業にチャレンジし、やりがいに繋げることはできたが利用者数が減少していることから前年度を維持するだけの作業量をこなすことが困難となり、作業収入は減少となった。

人材育成においてはぬくもりワークス、ぬくもりの家と合同で虐待防止研修を実施し、虐待チェックリストを深掘して理解を深め、何気ない行動が虐待へとつながることを再認識し支援の向上に努めた。また、BCPの研修では災害が起きた後の行動について全職員の理解を深めた。

### 1. 重点目標に対しての評価 評価：○できた・△だいたいできた・×できなかった

#### （1）利用に対するサービスの向上（利用者に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み	評価
利用者、他事業所、家族との関係構築に向けた取り組みを検討していきます。 ※活動報告会・自治会の運営サポート ※相談支援事業所、放課後等デイサービス事業所との情報交換 ※作業の時間と休憩時間のメリハリをつけるための余暇の充実を図ります。ホリデー企画等	活動報告会を2回実施し、安城市役所障害福祉課の担当者2名も出席した。 自治会を開催し、ホリデー企画の計画をサポートしながら社会体験や調理実習、体験したことのないボッチャなどのゲームをやり、意思形成支援を行った。	○
社会生活での必要なスキル・マナーの向上に努め「働く・余暇の充実」への意識を高めます。 『社会人としてのマナーを学ぼう』 ※ 就労セミナー実施 ※ 笑顔ミーティング ※ 働く身体づくり	自治会を通した笑顔ミーティングではそれぞれの意見を尊重・人の話を聞くに重きを置き、みんなで協議して決めることができた。体力作りでは作業が忙しく、行うことは少なかったが、YouTubeでストレッチを行い、身体をほぐして事故防止につなげた。就労セミナーは作業納期に追われてし	△

※ グループワーク	まい実施できなかった。	
利用者一人一人の生きがい、満足、感動のある気持ちを高めていきます。 ※送迎サービスの強化 送迎に課題のある方への対応 ※出勤率75%目標 魅力ある安城市虹の家に ※自治会の運営サポート みんなの夢を叶えよう ※令和6年度障害福祉サービス等報酬改定の方向性から6対1の配置を予定します。	安城市より4名乗りの車両を配備していただいたため、1名追加で送迎サービスを行ったが指定管理終了に伴い、拡大することを控えた。 6対1の配置は達成できた。 平均出勤率は74.6%と毎日通所して下さる方2名の退所もあり達成できなかった。	△

(2) 地域との連携を強化（社会に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み	評価
地元町内会との関係を深め、福祉に対する理解の促進を目指し開かれた施設を目指します。	各種公民館イベント（販売）へ定期的に参加した。特に地元町内会のまつりや廃品回収に協力した。	△
行政と連携して、地域福祉推進や災害時における安全・安心な生活確保に協力します。	追田川増水による水の氾濫被害を防ぐために、障害福祉課と連携し止水版を追加していただき、今年度は1度台風対策として止水版を門に設置した。	○
施設見学や体験を希望があれば行います。学校へ講師として講話を行い、新規利用にもつなげていきます。	希望があれば随時見学と体験を行った。今年度は1名と契約し現在も利用している。中学生の職場体験の受け入れも行い、安城高校で職業講話を行った。	○

(3) 人材育成と職員のスキルアップ（福祉人材に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み	評価
外部研修。施設見学の強化 ※障害特性に特化した施設への見学、または勉強会を実施し専門性のスキルを強化します。（強度行 動障害研修、野中式事例）	常勤職員は1回以上外部研修に参加し、ぬく家・ワークスと合同研修会も2回行い支援力アップに繋がったが、まだまだ十分とはいえない。	△
虐待防止委員会を通して「虐待に対する取り組み」に必要なスキルを向上させ、権利擁護意識の向上に努めます。	虐待防止委員会・身体拘束適性化委員会の中でセルフチェックシートの項目を深掘して理解を深めた。3ヵ月に1回のセルフチェックシートを実施し、早期対応に努めた。	○

チーム支援を確立するために情報共有の強化に努めます	毎朝5分ミーティングを実施し、情報共有を図った。勤務体制上から起きる、情報共有不足を解消するために、引継ぎノートを活用し、連絡・引継ぎを強化した。	○
---------------------------	---	---

(4) 施設における環境づくり

年間計画	取り組み	評価
できる事は維持していけるように、適度な運動量で体を動かす場面を設け現在の体力や健康の維持を図ります。(セルフケア)	作業が少ない時は体力作りとして歩行へ行ったが、年間を通して作業に追われてしまい、YouTubeを活用してのストレッチを30分から60分程度行った。	○
メールやSNS等を活用し施設保護者間での情報共有を強化します。	一部の保護者様より家庭の様子などをメールでいただいたので情報共有をした。通常の連絡は連絡帳や電話を活用して共有を行った。	△

《就労継続支援B型事業》

1. 年間利用実績 ※ ( ) 昨年度実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数 (人)	男性	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	95
	女性	10	9	9	10	10	10	9	9	9	8	8	8	109
	計	18	17	17	18	18	18	17	17	17	16	16	15	204
出席率 (%)		78.5	75.7	77.4	73.9	68.2	75.9	72.6	74.2	76.5	73.1	74.7	73.3	74.6 (74.6)

※1. 在籍者数は初日在籍数

※2. 出席率は在籍数に対する出席率

2. 年間行事

月	日	施設行事
4	5	昭林公園お花見 傾聴ボランティア
5	9	消火訓練
	10	傾聴ボランティア
	31	健康診断



6	4	いちご狩り
	7	傾聴ボランティア
7	1	活動報告会
	5	傾聴ボランティア
8	2	傾聴ボランティア
	22	歯科検診
	28	指定管理説明会（利用者様対象）安城市役所より
9	6	傾聴ボランティア
	24	通報訓練
10	4	傾聴ボランティア
	12	福祉ウォークラリー
11	4	傾聴ボランティア
	7	インフルエンザ予防接種
12	6	傾聴ボランティア
	19	避難訓練
	27	お楽しみ会
1	10	傾聴ボランティア
	24	活動報告会
2	7	傾聴ボランティア
	11	社会体験
3	7	傾聴ボランティア
	31	送別会

3. ボランティア受入状況（延べ人） ※（ ）昨年度実績

区 分	計	区 分	計	区 分	計
民生委員	12	高校生	8	合 計	20 (14)

4. 実習生受入状況（延べ人） ※（ ）昨年度実績

区 分	計	区 分	計	区 分	計
中学生	8 (13)	特別支援学校	5 (0)	合 計	13 (13)

5. 作業内容（作業別収入） ※（ ）昨年度実績

取 引 先	売上高（円）	内 容
クッキー製造（自主製品）	571,220	クッキー・チュイール 製造・販売
あんステップ	1,051,160	トイレ・会議室・廊下の掃除
杉本商会	251,729	ゴミ袋封入作業
富士カーボン	217,074	カーボンブラシ箱詰め作業
アルミ缶	10,830	アルミ缶潰し作業
アチーヴ	933,088	自動車部品組み立て
その他	110,088	クッキー袋詰め作業など
合 計	3,145,189	(3,896,176)

6. 工賃支給実績

4月～3月工賃支給額計                      2,845,008円                      （前年度      3,440,540円）

1ヶ月平均工賃支給額                      18,816円                      （前年度      20,334円）

※平均工賃の計算方法

平均工賃支給額    =    工賃支払総額    ÷（利用延べ人÷開所日数）÷ 12